

「平和について考えよう」

広島出身で、郡上市在住の組合員 田中さんがヒロシマのことをみんなに知ってもらいたいと、絵本「ひろしまのエノキ」の朗読や、広島で行われている平和の活動についてお話をしてくださり、「平和」についてみんなで考えました。(中濃エリア委員会)



「コープde楽しい夏休み ギトー食品工場見学」を行いました

7月25日(木)、お豆腐はどんなふうにできている?生協のお豆腐の良さって?関市にあるギトー食品の豆腐工場見学会を行いました。(岐阜西エリア委員会)



豆腐をカップに入れてローラーの上のせて流していた。すごい手早いさきようで、すごいと思いました。(9歳女子)

福島復興支援 ふくしまキッズを応援します

「ふくしまキッズわくわくプロジェクト 夏祭り」に参加しました。

7月27日(土)美濃市曾代にある岐阜県森林アカデミーにて行われたこの企画は、7月23日～8月1日までの10日間福島県の親子30人を岐阜に迎えて、思いっきり遊んでもらおうという保養企画で、NPO法人KIプロジェクトさんの主催企画にコープぎふも参加しました。コープぎふからは、夏祭りの支援と、食材の費用を組合員さんからお寄せいただいた「くらし応援募金」から寄付しました。



「ふくしまキッズ博」にたまねちゃんとマツくんも参加してきました!!

福島原発事故以来、屋外での活動が制限されるなど、不安とストレスを抱える子どもたちに、「夢」と「笑顔」と「元気」をプレゼントしようと思った「ふくしまキッズ博」。コープぎふのキャラクターたまねちゃんとマツくんも参加してきました。



2013年度 第2回理事会 (7/10) だより

- 6月期決算について承認しました。
《6月度事業結果》 (単位: 百万円)
- | | 6月実績 | 計画比(%) | 累計実績 | 計画比(%) |
|--------|-------|--------|-------|--------|
| 商品の供給高 | 2,242 | 96.1 | 6,288 | 96.8 |
| 総事業高 | 2,314 | 96.2 | 6,487 | 97.0 |
| 事業経費 | 482 | 96.4 | 1,410 | 96.7 |
| 経常剰余金 | 25 | 86.7 | 27 | 281.6 |
-
- | | | | |
|------|------------|----------|---------------|
| 組合員数 | 218,345名 | 計画比 | 99.9%(加入908名) |
| 出資金 | 38億7,625万円 | 一人当たり出資金 | 17,753円 |
- 6月10日に開催された第15回通常総代会のまとめと、第1四半期の活動のまとめについて確認されました。
 - 2014年4月より実施が予定されている消費税増税の対策について協議を開始しました。対策について引き続き協議を進めます。
 - 葬祭サービス関連事項
(1)名称を「コープぎふ葬祭サービス」に改め、組合員さんの幅広いご要望にお応えできるよう、新たに3社と提携することが確認されました。
 - 組織・組合員活動関連事項
(1)東日本大震災の被災地支援として、7月27・28日に開催される「ふくしまキッズ博」に参加することが確認されました。
(2)組合員一人ひとりが、普段のくらしの中でつながりを大切にしながら、より豊かなくらしづくりの機会のある場として、「おしゃべりパーティー」を10月から開催することを確認しました。



第2回学び語り合おう会 福島の取り組みから学ぶリスクコミュニケーションのあり方

今回は、「福島の取り組みから学ぶリスクコミュニケーションのあり方」をテーマに、「コミュニケーション」を通して「放射性物質リスクに対する食の安全」「安心感」についてみんなで考えあいました。コープふくしま専務理事野中俊吉さんのお話しをご紹介します。

講演 コープふくしま専務理事 野中俊吉さん



●大震災と原発事故 2011年3月11日の東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故による放射性汚染は福島県全域に甚大な被害を及ぼしました。震災直後から全国の生協の支援を受け、物資の提供や店舗営業を行ないましたが、その時の福島の空間放射線量は20マイクローシーベルト/時間。今考えると恐ろしい状態でした。コープふくしまの職員は予備知識ゼロ、気合と根性で被災者支援と事業復旧に向き合っていました。

●原発事故・放射能リスク不安への対応のスタート 震災からおおよそ1ヵ月後の2011年4月末から県内各地で放射能学習会を開催しました。「外に出られないときに生協はいつたい何をやっているんだ!」との声もありまし

た。震災からおおよそ1ヵ月後の2011年4月末から県内各地で放射能学習会を開催しました。「外に出られないときに生協はいつたい何をやっているんだ!」との声もありまし



たが、「放射能は怖い、理性的に恐がるのが大切!」というフレーズで、放射能知識ゼロから「腹」のすわった対応を進めるきっかけになりました。

●家庭の食事からの放射性物質摂取量調査開始 2011年秋には、家庭の食事からの放射性物質摂取量調査を始めました。食品そのものではなく、私たちが食べている食事そのものの放射性物質の測定です。調査に参加された組合員からは「私たちが不安になるのは、日常口にしてる食物の放射能汚染がどの程度かわからないところからきているので、今回の調査はその意味でありがたいです」「とても安心して心配せずに子どもにも食べさせられるようになりまし」と前向きな声をいただきました。この取り組みは福島県内自治体や国からも大きな評価が得られました。

●桃の取り組み

2011年、福島の桃は糖度もよく豊作だったにも関わらず、風評被害による影響で販売面では厳しい現実に直面しました。その苦しみを乗り越えるべく、冬季に果樹園での除染作業を実施、安心して食べていただけたような桃づくりに励みました。こうした取り組みを東海の生協組合員と交流し、安全を確かめていただきながら、2012年の夏、「JA伊達みらいの桃」の取り扱いをいただきました。農産物を支える取り組みは定期的になり、買い支えによる支援は、非常に大きな力となりました。昨年冬には47都道府県から注文をいただきました。全国の生協に支えていただけたことは、福島県民を元気にし、桃を利用していただくことは、県民の尊厳を取り戻すことにつながりました。これからも応援していただけたら幸いです。



(主催) 東海コープ理事会 東海コープのあり方

事故から3年経ち、農業生産者は「皆さんに頼るだけでなく自分たちでもやろう!」という機運です。日本生協連の協力で測定器を購入し、飯館村生産者が検査をとことんやりました。これは放射性物質の学習も兼ねることができました。石垣島に避難した家族がコープの取り組みを知り、福島に帰って子どもを育てる元気が出てきたそうです。またもの暮らしに戻りたいの思いから、コープふくしまで除染ボランティアの窓口を開設し、JAと果樹などの対策会議を開催し、農作地の土壌スクリーニング・プロジェクトに取り組んでいます。福島は忘れ去られた地域になってしまっています。コープふくしまは、小さなことでもできることを精一杯続けて、一歩でも前に進めるようにしていきたいと考えています。